



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：ヒズボラとの軍事衝突の可能性

(1月24-25日付現地各紙)

1. 1月24日付報道

- (1) 23日朝、ペレド無任所相（リクード、元イスラエル国防軍北部方面司令官）は、「北部国境情勢が緊迫化しており、時期の特定は出来ないが、我々は再び北部国境での戦闘に突入することになる。ヒズボラのみでなく、レバノン及びシリアの両国家の責任も問われることになる」と発言した。
- (2) 同発言を受けて、ネタニヤフ首相は同日の夜、「イスラエル国家はレバノンとの衝突を望んではいない。イスラエルは、全ての近隣諸国との間で平和を望んでいる」という声明を発出した。
- (3) 駐レバノンの欧州外交筋によれば、レバノンのハリーリ首相とスレイマン大統領は、レバノン訪問中のミッチェル米中東和平担当特使に対し、イスラエルからの攻撃について懸念を伝え、イスラエル国防軍による領空侵犯及び国境付近での演習の増加がその証拠であると説明した。ハリーリ・レバノン首相は先の訪仏時に、サルコジ大統領及びクシュネール外相にも同様の懸念を伝えている（注：1月25日付「かわら版」ご参照）。クシュネール外相はハリーリ首相との会談後の記者会見で、レバノン国家にとっての真の脅威は、イスラエルではなくヒズボラであると述べている。

2. 1月25日付報道

- (1) 24日、アイゼンコット・イスラエル国防軍北部方面司令官は、テルアビブ大学国家安全保障研究所での会合で、「メディアが報じている北部国境の緊張は虚構であり、事実に基づいていない」と発言する一方で、「ヒズボラとの衝突は瞬時にして発展し得る」ことを認めた。
- (2) 同司令官は、ヒズボラの軍事力について、「シリアを通じてあらゆる種類の武器、ミサイルが送られており、2006年の第二次レバノン戦争当時から著しく増強されている」「リタニ川以南のみならず、リタニ川以北からもイスラエル国内に向けた作戦が可能になっている」「2年前のムグニエ（注：ヒズボラの指導者の一人で、イスラエルに暗殺されたと言われる）死亡事件以後、ヒズボラの作戦行動へのイラン革命防衛隊の関与が顕著になっている」と述べた。また「イスラエルがヒズボラから攻撃された場合、イスラエルはレバノン南部のシーア派村落内のヒズボラ拠点に非対称的な攻撃を加える。ヒズボラの主要拠点を破壊した後、シーア派住民に対して避難勧告を行った後に攻撃を開始する」と言明した。
- (3) 24日、アヤロン副外相は、エルサレムでウイリアムス国連レバノン調整官と会談し、イスラエルはレバノン及びヒズボラとの緊張を高める意図を有していないことを説明した。そして、イスラエルが望む北部国境地帯の平穏と安定のため、国連安保理決議1701が遵守されるよう、イスラエルがUNIFIL及びレバノン国軍と協力することの必要性を確認した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799